

## 荒川大規模氾濫に関する減災対策協議会

### 資料

(1) 地域の取り組み方針について【資料1、2】

・令和5年度 取組状況の報告

資料1 荒川流域の減災に係る取組方針 取組一覧

資料2 自分事化に向けた取組のフォローアップ  
(減災目標を達成するための取組)

(2) 荒川流域タイムライン【資料3】

(3) その他

・高田排水樋管のフラップゲート化【資料4】

減災のための取組項目(概要)		羽越河川圏道				新潟県				新潟地方気象台					
取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)	
項目	事項	内容	課題の対応	実施内容	時期	実施内容	進捗状況	実施内容	時期	実施内容	進捗状況	実施内容	時期	実施内容	進捗状況
①安全な場所への避難避難に向けた、円滑かつ迅速な避難のための取組															
■情報伝達・避難計画等に関する取組															
	1	リアルタイムの情報提供やブッシュ型情報の発信の実施継続(水位、気象情報、カメラ映像、ホットラインなど)	G.H.I.J	「川の防災情報システム」によるスマートフォンを活用した情報発信、ブッシュ型情報の発信を継続実施	引き続き実施	平成29年5月22日よりブッシュ型の洪水予報等の情報発信を開始し、継続実施中	実施を継続	・県民が自主的に避難行動をとれるように効果的な情報提供手法を検討	引き続き実施	令和2年7月より新潟県河川防災情報システムにカメラ映像を公開し、継続実施中	実施を継続	・各種情報提供の継続・地域支援チームにより、提供資料の利活用を促進	引き続き実施	・気象警報・注意報を発生し、現象ごとに警戒期間、注意期間、ピーク時間帯、雨量などの予想或大値を周知・気象状況に応じ、自治体に資料提供、情報伝達を適宜実施	実施を継続
	2	避難指示等の発令に留意した防災計画(タイムライン)の検証と改善	C	・出水後におけるタイムラインの検証と改善・必要に応じて、水位情報等の提供など(継続)	引き続き実施	・国管理区間のタイムラインは策定済み、今後は検証と改善を行う・R3年度より事前防災情報や行動を共有し、災害対応の向上を図る荒川流域タイムラインの運用開始	実施を継続	・タイムラインを策定していない河川において、関係機関が連携し、流域雨量指数を用いた水害危険性の周知に関する取組を実施	引き続き実施	・R3年に水害対応タイムラインを修正(荒川・鹿の洪水水害)・R3年度より事前防災情報や行動を共有し、災害対応の向上を図る荒川流域タイムラインの運用開始	実施を継続	北陸地産・県・市・村と共同し、整備・改善を支援(継続)	引き続き実施	・市町村訪問により、避難判断基準の検証、あわせて、市長による市長訪問を実施し、市町村との連携強化を図る・R3年度より事前防災情報や行動を共有し、災害対応の向上を図る荒川流域タイムラインの運用開始	実施を継続
	3	想定最大規模も含めた地域別洪水想定区域図、家屋倒壊等危険想定区域の公表	D.E.F					想定区域区域内戸数が200戸以上の河川では、浸水想定区域図を順次策定していく	順次実施	荒川(H30年6月告示)乙大日川・鳥川・堀川・大石川(R3年12月告示)赤木山大沢川(保全対象のある河川(R3年4月策定)に公表・公表予定)	実施を継続				
	4	立ち遅れ避難が必要な区域及び避難方法の検討	D.E.F.K					・想定区域区域内戸数が200戸以上の河川では、浸水想定区域図及び家屋倒壊危険区域図を順次策定していく	順次実施	荒川(H30年6月告示)乙大日川・鳥川・堀川・大石川(R3年12月告示)赤木山大沢川(保全対象のある河川(R3年4月策定)に公表・公表予定)	実施を継続				
	5	参加市・村による広域避難計画の策定及び支援	D.E	・作成に必要な情報の提供及び策定を支援(継続)	引き続き実施	令和2年1月27日に浸水想定区域図を公表・公表	実施を継続	・作成に必要な情報の提供及び策定を支援・市村間の調整や運営上の課題への支援(継続)	引き続き実施	平成30年6月29日及び令和2年12月24日に浸水想定区域図を公表	実施を継続	・作成に必要な情報の提供及び策定を支援(継続)	引き続き実施	関係機関と情報共有を図りながら、今後も適宜支援を実施。	実施を継続
	6	広域的な避難計画等を反映した新たな洪水ハザードマップの周知・活用促進	D.E.F	・ハザードマップポータルサイトの周知と活用を促進(継続)	引き続き実施	・R4年度より水害リスクマップ、多段階浸水想定区域をHP公表	実施を継続								
	7	水位予測の検討及び精度の向上	B					流域雨量指数(洪水予報の危険度分布)を活用した水害危険性周知を検討	引き続き実施	減災対策協議会にて情報を共有	実施を継続				
	8	「危険度の色分け表示」や「警戒線の可能性」、「危険度分布」等による気象情報発信	J									「危険度の色分け表示」や「警戒線の可能性」、「危険度分布」等による気象情報発信・地域支援チームによる提供資料の利活用を促進	引き続き実施	・[R04.6]キキクル(危険度分布)の改善・警戒レベル4相当の警への一本化、警戒レベル5相当の警の新設・[R02.2]気象庁ホームページにおける水害リスクマップと洪水予報の統合表示・[R03.7]キキクル(危険度分布)の改善・洪水予報の危険度分布の活用・[R05.12]減災情報発信の活用	引き続き実施
	9	流域雨量指数(洪水予報の危険度分布)を活用した水害危険性周知を検討	B					流域雨量指数(洪水予報の危険度分布)を活用した水害危険性周知を検討	引き続き実施	減災対策協議会にて情報を共有	実施を継続	流域雨量指数(洪水予報の危険度分布)を活用した水害危険性周知を検討	引き続き実施	・洪水予報(洪水予報の危険度分布)活用に向けた地域防災計画の策定支援を適宜実施。	実施を継続
	10	河川監視カメラによる水位計・雨量計等の観測及び維持管理を実施	L.J	・簡易水位計、河川監視カメラによる観測及び維持管理を実施	引き続き実施	観測及び維持管理を実施中	実施を継続	・簡易水位計、河川監視カメラによる観測及び維持管理を実施	引き続き実施	・河川監視カメラによる観測及び維持管理を実施(荒川1箇所)・危険管理型水位計を(取組)川、赤木山大沢川、太田沢川 3箇所)	実施を継続				
■平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組															
	1	自治会や地域住民が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の見守り活動の実施	A	・重要水防所等の共同見守り活動(継続)	引き続き実施	【実績なし】※地域参加型の仕組みを検討	実施を継続	・出水前日に自治会や地域住民と重要水防所の共同見守り活動を実施(継続)	引き続き実施	【R5.26】県管理河川による合同巡視を実施。(旧荒川・神林管内)【R5.28】荒川合同巡視に参加。	実施を継続				
	2	小中学校等における水防教育の実施	A	・市村の要請により、出前講座等を積極的に実施(継続)	引き続き実施	【R5】4校で出前講座を実施	実施を継続	・新潟県防災教育プログラム(洪水災害編)を作成済み・市村の要請により、出前講座等を積極的に実施(継続)	引き続き実施	【R5】市村より出前講座の要請はなかった。	実施を継続	・教育委員会と連携し、効果的な対応を検討する(継続)	引き続き実施	関係機関と情報共有を図りながら、今後も適宜支援を実施。	実施を継続
	3	出前講座等を活用し、水防等に関する説明会を開催	A	・市村の要請により、出前講座等を積極的に実施(継続)	引き続き実施	【R5】市村より出前講座の要請はなかった。	実施を継続	・市村の要請により、出前講座等を積極的に実施(継続)	引き続き実施	【R5】市村より出前講座の要請はなかった。	実施を継続	・関係機関と連携し、効果的な対応を検討する(継続)	引き続き実施	関係機関と情報共有を図りながら、今後も適宜支援を実施。	実施を継続
	4	まちごとまちごとハザードマップを整備	D.F.I	・市村が作成するまちごとまちごとハザードマップへの情報提供(継続)	引き続き実施	【実績なし】	実施を継続	・想定区域区域内戸数が200戸以上の河川では、浸水想定区域図を順次策定していく	引き続き実施	荒川(H30年6月告示)乙大日川・鳥川・堀川・大石川(R3年12月告示)	実施を継続				
	5	効果的な「水防災意識社会」の再構築に役立つ広域や資料を作成・配布	H	・水防災意識社会の再構築に役立つ広域や資料を作成・配布(継続)	引き続き実施	事務所Webサイトに減災対策協議会の取組について掲載	実施を継続	・住民らからの避難や避難行動を促すことができるように理解しやすい情報を提供	引き続き実施	一般住民向けに洪水時の避難に役立つ情報を新潟県のWebサイトに掲載	実施を継続	・水防災意識社会の再構築に役立つ広域や資料を作成・配布(継続)	引き続き実施	【R5.12】減災情報発信の実施(情報伝達訓練)を実施	実施を継続
	6	住民の防災意識を高め、地域の防災力の向上を図るための自主防災組織の充実	K												
②洪水災害による被害の軽減及び避難時間の確保のための水防活動等の取組															
■水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組															
	1	水防活動等への連絡体制の構築と首長も参加した実証的な情報伝達訓練の実施	M	・水防連絡会にて連絡体制の構築を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。	引き続き実施	【R5.5.12】直轄管理区間の洪水対応演習を実施	実施を継続	・水防連絡会にて連絡体制の構築を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。	引き続き実施	【R5.5.26】直轄管理区間の洪水対応演習に参加	実施を継続	・情報伝達訓練への支援(継続)	引き続き実施	【R4】支援要請実績はなかったが、関係機関と情報共有を図りながら、今後も適宜支援を実施。	実施を継続
	2	自治体関係機関や水防団が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の合同巡視の実施	U.L.M	・重要水防所等の合同見守り活動(継続)	引き続き実施	【R5.5.28】荒川合同巡視を実施	実施を継続	・重要水防所等の合同見守り活動(継続)	引き続き実施	【R5.5.28】荒川合同巡視に参加	実施を継続				
	3	県北地域が一丸となり、毎年、関係機関が連携した水防実地訓練等を実施	O.P	・水防管理団体が行う訓練への参加(継続)	引き続き実施	【R5.5.28】荒川水防訓練を実施	実施を継続	・水防管理団体が行う訓練への参加(継続)	引き続き実施	【R5.5.28】荒川合同巡視に参加	実施を継続	・関係機関等の要請により、訓練への支援(継続)	引き続き実施	【R4】支援要請実績はなかったが、関係機関と情報共有を図りながら、今後も適宜支援を実施。	実施を継続
	4	水防活動の担い手となる水防協力団体の募集・指定を促進	NP												
	5	大規模災害時の復旧活動の拠点等配置計画の検討を実施	O	・復旧活動の拠点等配置計画を検討(継続)	順次実施	検討中	実施を継続	・復旧活動の拠点等配置計画を検討(継続)	順次実施	検討中	実施を継続				
	6	新技術を活用した水防資機材の検討及び配備	O.O	・水防連絡会にて水防資機材の検討及び配備(継続)	引き続き実施	【R5.5.28】荒川合同巡視を実施	実施を継続	・水防連絡会にて水防資機材の検討及び配備(継続)	引き続き実施	【R5.5.28】荒川合同巡視に参加	実施を継続				
■要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組															
	1	要配慮者等の迅速な避難に向けた取組の充実(避難確保計画の作成支援、地域包括支援センターへのハザードマップの提示や防災関連のパンフレット設置等)	K	・要配慮者利用施設による避難確保計画等の作成支援を行う(継続)	引き続き実施	・要配慮者利用施設からの助言要請等がなかった	実施を継続								
③社会経済活動を取り戻すための排水活動及び施設運用の強化															
■救援・救助活動の効率化に関する取組															
	1	大規模災害時の救援・救助活動等支援のための拠点等配置計画の検討を実施	E.S	・広域支援拠点等の検討支援(継続)	順次実施	・R3年度に大規模水害を想定した荒川排水計画(案)策定	実施を継続	・広域支援拠点等の検討支援(継続)	順次実施	検討中	実施を継続				
■排水訓練の実施等															
	1	排水ポンプ車の出動要請の連絡訓練の実施	R	・毎年、出水前日に県・市・町と連携して連絡体制の整備を行い、情報共有を図る。(継続)	引き続き実施	・排水ポンプ車を含む災害対策機械の要請方法について共有	実施を継続	・連絡体制の確認(継続)	引き続き実施	排水ポンプ車想定箇所及び連絡体制を確認	実施を継続				
	2	関係機関が連携した排水訓練の実施	S	・実践的な操作訓練や排水計画に基づく排水訓練の検討及び実施・水防管理団体が行う水防訓練等への参加(継続)	引き続き実施	・排水ポンプ車の実動排水訓練RS.5.24高田排水管RS.7.4鳥屋排水管(継続)	実施を継続	・排水ポンプ車の実動訓練を実施(継続)	引き続き実施	【R5.5.24】排水ポンプ車の実動訓練に参加	実施を継続				

減災のための取組項目(重要)			村上市				岡川村				船上市								
項目	事項	内容	取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)						
			実施内容	時期	実施内容	進捗状況	実施内容	時期	実施内容	進捗状況	実施内容	時期	実施内容	進捗状況					
1) 安全な場所への避難避難に向けた取組	■情報伝達、避難計画等に関する事項	①リアルタイムの情報提供やブッシュ型情報の発信の実施(水位、気象情報、カメラ映像、ホットラインなど)	防災メール等について、更新の普及のため告知、広報を実施する。(継続)	引き続き実施	HPや防災出前講座で防災メール及び村上市公式サイトの普及について告知している。	実施を継続	緊急通報メール等について、更新の普及のため告知、広報を実施する。(継続)	引き続き実施	広報誌による防災メール登録の促進(通年)R6年2月時点登録者総数1302名	実施を継続	緊急通報メール等について、更新の普及のため告知、広報を実施する。(継続)	引き続き実施	防災ガイドブック、HP等で告知・広報を行っており、2月1日現在、3,527人の登録者あり(昨年同期より95人増)	継続					
			②避難指示等の発生に着目した防災行動計画(タイムライン)の検証と改善	「出水後におけるタイムライン」の検証と改善(継続)	引き続き実施	R6年度より事前防災情報や行動を共有し、災害対応の向上を図る荒川流域タイムラインの運用開始	実施を継続	「出水後におけるタイムライン」の検証と改善(継続)	引き続き実施	R4年度の洪水被害を踏まえ高田地区の洪水被害対策、洪水被害、住民広報、避難行動などの一環の行動に資するコミュニケーションタイムラインを策定、R6年度出水期より運用開始	実施を継続	「出水後におけるタイムライン」の検証と改善	引き続き実施	R5年度より事前防災情報や行動を共有し、災害対応の向上を図る荒川流域タイムラインの運用開始	継続				
			③想定最大規模も含めた地域別想定浸水想定区域図、家屋倒壊等ハザード想定区域の公表	DE F															
			④立ち退き避難が必要な区域及び避難方法の検討	DE F K															
			⑤参加市・村による広域避難計画の策定及び支援	DE															
			⑥広域的な避難計画等を反映した新たな洪水ハザードマップの告知・活用促進	DE F															
			⑦水位予測の検討及び精度の向上	B															
			⑧「危険度の色分け表示」や「警戒域の可能性」、「危険度分布」等による気象情報発信	J															
			⑨流域雨量指数(洪水予測の危険度分布)を活用した水害危険性告知を検討	B															
			⑩円滑な避難活動や水防活動を支えるため、雨量水位計(危険管理型水位計含む)等による適切な観測や維持管理の継続	L J															
			■平時から住民等への周知・教育・訓練		①自治会や地域住民が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の見守り活動の実施	「出水期前に自治会や地域住民と重要水防所」の共同点検を実施(継続)	引き続き実施	R5.5.28荒川合同点検を実施	実施を継続	「出水期前に自治会や地域住民と重要水防所」の共同点検を実施(継続)	引き続き実施	R5.5.28荒川合同点検を実施	実施を継続	「出水期前に自治会や地域住民と重要水防所」の共同点検を実施(継続)	引き続き実施	実施を継続	実施を継続		
						②小中学校等における防災教育を実施	A												
						③出前講座等を活用し、水防等に関する説明会を開催	A												
						④まちごとまちごとハザードマップを整備	D F I												
						⑤効果的な「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報や資料を作成・配布	H												
⑥住民の防災意識を高め、地域の防災力の向上を図るための自主防災組織の充実	K																		
2) 洪水発生による被害の軽減及び避難時間	■水防活動の効率化及び水防体制の	①水防活動への連絡体制の構築と首長も参加した実効的な情報伝達訓練の実施	「水防連絡会にて連絡体制の構築を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。(継続)」	引き続き実施	R5.5.12洪水対応演習に参加	実施を継続	「水防連絡会にて連絡体制の構築を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。(継続)」	引き続き実施	R5.5.12洪水対応演習に参加	実施を継続	「水防連絡会にて連絡体制の構築を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。(継続)」	引き続き実施	R5.5.12洪水対応演習に参加	実施を継続					
			②自治会関係機関や水防団が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の合同点検の実施	U L M															
			③県北地域が一元となり、毎年、関係機関が連携した水防訓練を実施	O, P															
			④水防活動の担い手となる水防団員の募集を促進	N P															
			⑤大規模災害時の復旧活動の拠点等配置計画の検討を実施	O															
			⑥新技術を活用した水防資機材の検討及び配備	O, Q															
			■要配慮者利用施設や大規模工場等	K	「要配慮者施設における避難計画策定の推進を行う」	順次実施	R5に避難計画策定の講習会を開催予定	実施を継続	「要配慮者施設における避難計画策定の推進を行う」	順次実施	要配慮者施設における避難計画策定の推進(今年度末までに「要配慮者施設」への提出を目標、R6年2月現在進捗状況は16施設中10施設が提出済み)	実施を継続	「避難計画策定の推進」の要配慮者施設への避難計画策定の推進(今年度末までに「要配慮者施設」への提出を目標、R6年2月現在進捗状況は16施設中10施設が提出済み)	順次実施	自治会・県、自主防災組織へ避難計画策定の推進(今年度末までに「要配慮者施設」への提出を目標、R6年2月現在進捗状況は16施設中10施設が提出済み)	実施を継続			
					⑦教養・救助活動の効率化に関する取組	E S													
■排水訓練の実施等	R	「連絡体制の構築(継続)」	引き続き実施	「排水ポンプ車を含む災害対応機材の要請方法について共有」	実施を継続	「連絡体制の構築(継続)」	引き続き実施	排水ポンプ車出動要請の連絡体制を構築し、上関水位観測所地点のタイムラインに反映	実施を継続	「連絡体制の構築(継続)」	引き続き実施	連絡体制を構築している	実施を継続						
		S																	
		S																	

減災のための取組項目(業務) (令和5年度)			荒川水力発電				赤芝水力発電				東北電力			
項目	事項	内容	取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)		取組方針(R3.5策定)		取組状況(実績)	
			実施内容	時期	実施内容	進捗状況	実施内容	時期	実施内容	進捗状況	実施内容	時期	実施内容	進捗状況
①安全な場所への確実な避難に向けた取組														
■情報伝達・避難計画等に関する事項														
		①リアルタイムの情報提供やブッシュ型情報の発信の実施継続(水位、気象情報、カメラ映像、ホットラインなど)	ダム放流にサイレンスビーカー等による周知を実施する。(継続)	引き続き実施	ダム放流にサイレンスビーカー等による周知を実施している。	引き続き実施	ダム放流にサイレンスビーカー等による周知を実施する。(継続)	引き続き実施	ダム放流にサイレンスビーカー等による周知を実施している。	引き続き実施	ダム放流にサイレンスビーカー等による周知を実施する。(継続)	引き続き実施	ダム放流にサイレンスビーカー等による周知を実施している。	引き続き実施
		②避難指示等の命令に着目した防災行動計画(タイムライン)の検証と改善												
		③想定最大規模も含めた地域別洪水想定区域図、家屋倒壊等危険想定区域の公表												
		④立ち退き避難が必要な区域及び避難方法の検討												
		⑤参加市・村による広域避難計画の策定及び支援												
		⑥広域的な避難計画等を反映した新たな洪水ハザードマップの周知・活用促進												
		⑦水位予測の検討及び精度の向上	データの提供提供(継続)	引き続き実施	遊船ダムデータの提供提供(毎10分)	引き続き実施	データの提供提供(継続)	引き続き実施	【R6.1現在】検討中	引き続き検討	高のダムデータの提供提供(毎正時)	引き続き実施	高のダムデータを毎正時提供している。	引き続き実施
		⑧「危険度の色分け表示」や「警戒線の可能性」、「危険度分布」等による気象情報発信												
		⑨流域雨量指数(洪水予測の危険度分布)を活用した水害危険性周知を模試												
		⑩円滑な避難活動や水防活動を支えるため、緊急水位計(危機管理型水位計含む)等による適切な観測や維持管理の継続												
■平時から住民等への周知・教育・訓練														
		①自治会や地域住民が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の共同点検の実施												
		②小中学校等における水災害教育を実施												
		③出前講座等を活用し、水防災等に関する説明会を開催												
		④まるごとまちごとハザードマップを整備												
		⑤効果的な「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報や資料を作成・配布	「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報や資料を作成・配布(継続)	引き続き実施	ダム放流における水害防止を促すため、遊船ダムデータの提供提供(毎10分)	引き続き実施	「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報や資料を作成・配布(継続)	引き続き実施	【R5.7.1】ダム放流における水害防止に向け、遊船ダムデータの提供提供(毎10分)	引き続き実施	遊船ダムデータの提供提供(毎正時)	引き続き実施	【R5.7.1】ダム放流における水害防止を促すため、遊船ダムデータの提供提供(毎10分)	引き続き実施
		⑥住民の防災意識を高め、地域の防災力の向上を図るための自主防災組織の充実												
②洪水氾濫による被害の軽減及び避難時間														
■水防活動の効率化及び水防体制の強化														
		①水防団等への連絡体制の確立と首長も参加した実地的な情報伝達訓練の実施	水防連絡会にて連絡体制の確立を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。(継続)	引き続き実施	【RS.5.12】洪水対応演習に参加	引き続き実施	水防連絡会にて連絡体制の確立を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。(継続)	引き続き実施	【RS.5.12】洪水対応演習に参加	引き続き実施	水防連絡会にて連絡体制の確立を行い、県・市・村と共同で情報伝達訓練を実施する。(継続)	引き続き実施	【RS.5.12】洪水対応演習に参加	引き続き実施
		②自治体関係機関や水防団が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の合同点検の実施												
		③東北地域が一丸となり、毎年、関係機関が連携した水防実働訓練等を実施	水防管理団体が行う訓練への参加(継続)	引き続き実施	【RS.5.28】荒川水防訓練に参加	引き続き実施	水防管理団体が行う訓練への参加(継続)	引き続き実施	【RS.5.28】荒川水防訓練に参加	引き続き実施	水防管理団体が行う訓練への参加(継続)	引き続き実施	【RS.5.28】荒川水防訓練に参加	引き続き実施
		④水防活動の担い手となる水防協力団体の募集・指定を促進												
		⑤大規模災害時の復旧活動の拠点等配置計画の検討を実施												
		⑥新技術を活用した水防資機材の検討及び配備												
■要配慮者利用施設や大規模工場等														
		①要配慮者等の迅速な避難に向けた取組の充実(避難確保計画の作成支援、地域包括支援センターへのハザードマップの提示や防災関連のパンフレット設置等)												
③社会経済活動を取り戻すための排水活動														
■救援・救助活動の効率化に関する取組														
		①大規模災害時の救援・救助活動等支援のための拠点等配置計画の検討を実施												
■排水訓練の実施等														
		①排水ポンプ車の出動要請の連絡訓練の実施												
		②関係機関が連携した排水実働訓練の実施												

## R5取組状況 (羽越河川国道事務所)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 教育活動

- 小学校へ防災出前講座を実施 (5回、約100人)



### 訓練活動

- 直轄管理区間の洪水対応演習を実施 (1回、20人)
- 荒川水防訓練を実施(1回、全体375人)
- 排水ポンプ車の実働訓練の実施 (2回、全体55人)



### 水防活動の支援

- 荒川合同巡視を実施 (1回、全体55人)
- 県や市町村等と連携し排水ポンプ車を含む災害対策機械の要請方法について共有

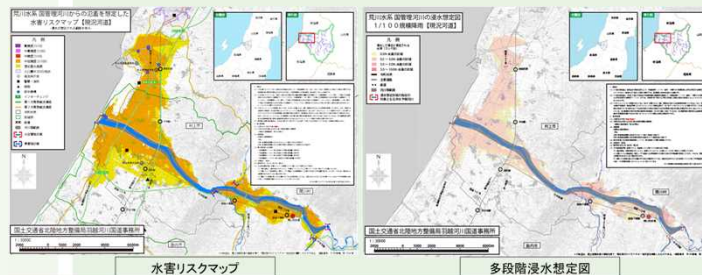


### 流域治水の広報

- 事務所WEBサイトに減災対策協議会の取組について掲載

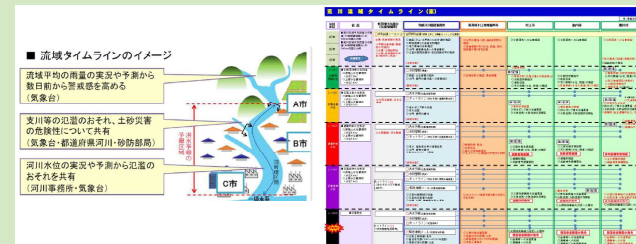
### リスク情報等の提供

- R2年に浸水想定区域図を公示・公表
- R4年に水害リスクマップ、多段階浸水想定図をHP公表
- プッシュ型の洪水予報等の情報発信
- 簡易水位計(8箇所)、河川監視カメラ(4箇所)による観測及び維持管理を実施



### 計画策定

- R3年に大規模水害を想定した荒川排水計画(案)を策定
- 国管理区間のタイムラインを策定
- 国、県、自治体が災害発生前に取るべき防災行動を共有し、災害対応の向上を図るために、流域タイムラインをR5年度より運用開始



### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

## R5取組状況 (新潟県)

流域にも視野を広げる

- 5 -

(自分のためにも、みんなのためにも)

### 連携活動

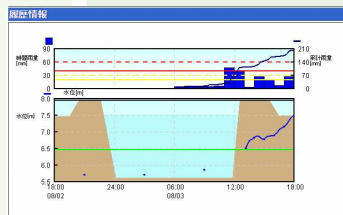
- 減災対策協議会にて流域雨量指数を活用した水害危険性周知情報を共有

### 流域治水の広報

- 一般住民向けに洪水時の避難に役立つ情報を県のWebサイトに掲載

### リスク情報等の提供

- 浸水想定区域図を公示・公表済み(荒川、乙大目川、烏川、堀川、大石川)
- R6年4月末までに浸水想定区域図を公示・公表予定(春木山大沢川ほか保全対象のある河川)
- 県河川防災情報システムにカメラ画像を公開
- 河川監視カメラによる観測及び維持管理を実施(荒川 1箇所)
- 危機管理型水位計を設置(烏川、春木山大沢川、太田沢川 3箇所)



月・日	08/02	08/03	08/04	08/05	08/06	08/07	08/08
観測値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
予測値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
累計	1	1	1	1	1	1	1

### 訓練活動

- 直轄管理区間に参加(1回、10人)
- 荒川水防訓練に参加(1回、6人)
- 排水ポンプ車の実働訓練に参加(1回、2人)



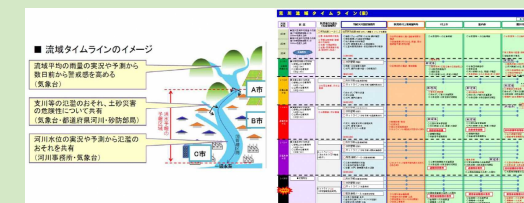
### 水防活動の支援

- 荒川合同巡視に参加(1回、3人)
- 重要水防箇所巡視(1回、13人)
- 排水ポンプ車想定箇所及び連絡体制を確認



### 計画策定

- R3年に水害対応タイムラインを修正(荒川・鷹の巣水位局)
- 国、県、自治体が災害発生前に取るべき防災行動を共有し、災害対応の向上を図るために、流域タイムラインをR5年度より運用開始



### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

## R5取組状況 (新潟地方気象台)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 教育活動

- 関係機関と情報共有を図りながら、水災害教育へ適宜支援を実施

### 訓練活動

- 洪水予報伝達演習を実施(5/12)

### リスク情報等の提供

- 気象警報・注意報を発表し、現象ごとに警戒期間、注意期間、ピーク時間帯、雨量などの予想最大値を周知
- 気象状況に応じ、自治体に資料提供、情報伝達を適宜実施
- 市町村訪問により、避難判断基準の解説及び台長による首長訪問(18市町村、12回)を実施し、市町村との連携を強化
- キキクル(危険度分布)の改善:洪水キキクルから「流域雨量指数の予測値」へのリンク追加(7/6)
- 気象庁HPIにおける水害リスクラインと洪水キキクルの統合表示
- 気象情報の充実、予報精度の向上(線状降水帯の予測精度向上等)に向けた取り組み強化)

### 計画策定

- 洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)活用にむけた地域防災計画の改定支援を適宜実施
- 国、県、自治体が災害発生前取るべき防災行動を共有し、災害対応の向上を図るために、流域タイムラインをR5年度より運用開始



流域タイムラインのイメージ

- 流域平均の雨量の異常や予測から数日前から警戒態勢を高める(気象台)
- 実川等の雨量のいずれ、土砂災害の危険性について共有(気象庁・河川事務所・消防団)
- 河川水位の異常や予測から危険の発生を共有(河川事務所・気象台)

### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

## R5取組状況 (村上市)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 流域治水の広報

- 防災シンポジウムを開催し、災害体験談パネルディスカッションで3集落(小岩内、下鍛冶屋、高根)と災害の振り返り等を実施(約750名)
- HPや防災出前講座で防災メール及び村上市公式ラインの普及について周知
- HPで広報・啓発



### 教育活動

- 学校及び地域団体等へ防災出前講座を実施(13回、延べ604人)



### 訓練活動

- 洪水対応演習を実施
- 荒川水防訓練を実施(244人参加)
- 村上市総合防災訓練(10,804人参加)

### 水防活動の支援

- 荒川合同巡視を実施
- 市報、HP、ポスター等で水防団員を募集
- 排水ポンプ車を含む災害対策機械の要請方法について共有



### 水災害対策の支援

- 農業ため池の防災のための水管理に取り組む組織に多面的機能支払交付金による支援を実施
- 田んぼダムに取り組む組織に多面的機能支払交付金による支援を実施

### 計画策定

- 国、県、自治体が災害発生前に取るべき防災行動を共有し、災害対応の向上を図るために、流域タイムラインをR5年より運用開始

### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える



## R5取組状況 (関川村)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 連携活動

- 県と合同の総合防災訓練において浸水害を想定とする住民避難訓練、避難所運営訓練を関係機関と連携して実施 (1回、約1000人)
- 地域と連携して、コミュニティタイムラインに沿った避難訓練を実施 (1回、高田集落約100人)



住民避難訓練 (国交省)

### 流域治水の広報

- 広報誌による防災メール登録の促進 (R6年2月時点登録者総数1302名)
- 広報誌による各地区の防災活動の事例紹介(5年度:防災士×1名を育成等)

### 教育活動

- 関川小学校の社会科授業のニーズに応じて防災学習(出前講座)を実施 (1回、4年生34人)
- 昨年8月豪雨災害に伴い他自治体の要望に応じて防災研修を受け入れた。(2回、山形県白鷹町16人、新潟市東区13人)
- 内閣府の「防災スペシャリスト養成研修」に防災職員が出講し昨年8月豪雨災害に伴う「風水害における警報と避難」について講義(動画収録・資料提供)し人材の育成・普及を支援した。
- 河川フォーラム2024に防災職員を講師に派遣し荒川の「流域治水」による豪雨災害対策に取り組んだ。(R6年2月)



防災学習 (関川小学校)



防災研修 (山形県白鷹町)

### リスク情報等の提供

- ハザードマップの普及、活用に係る説明会等を開催(各集落)

### 訓練活動

- 洪水対応演習へ参加 (1回、3人)
- 荒川水防訓練へ参加 (1回、50人)




洪水対応演習(関川村水防団)

### 水防活動の支援

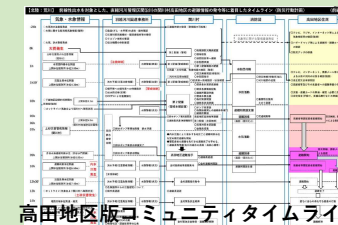
- 荒川合同巡視へ参加(1回、19人)
- 水防団員(消防団員)の募集を実施
- 水防連絡会にて連絡体制を確認
- 排水ポンプ車出動要請の連絡体制を確認し、上関水位観測所地点のタイムラインに反映

### 計画策定

- 個別避難計画の概成(下関・高田地区)
- 要配慮者施設における避難確保計画策定を推進(下関・湯沢地区)
- 国、県、自治体が災害発生前に取るべき防災行動を共有し、災害対応の向上を図るために、流域タイムラインをR5年度より運用開始
- R4年8月の浸水被害を踏まえ高田地区の排水樋管操作、排水活動、住民広報、避難行動などの一連の行動に関するコミュニティタイムラインを4月に策定、R5年度出水期より運用開始



荒川流域タイムライン



高田地区版コミュニティタイムライン

### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

## R5取組状況 (胎内市)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 連携活動

- 市内防災士を対象とし、新潟地方気象台の協力により、防災気象講演会を実施(7月、参加37人)

### 教育活動

- 中条高校へ防災講話を実施(7月)
- 中条中学校2年生へ防災学習を実施(9月)
- 黒川小学校4年生へ防災講話を実施(10月)
- 地域包括支援センター職員へ防災講話を実施(11月)



来るべき自然災害への備え

- ① **自分たちが住んでいる地域の災害リスクを知る**  
⇒ハザードマップを確認しましょう
- ② **災害に備える**  
⇒非常持出品・備蓄品を確認しましょう  
⇒避難行動をあらかじめ時系列で整理した自分の防災行動計画を決めておきましょう
- ③ **災害情報を自ら入手する**  
⇒情報入手のアイテムを活用しましょう

### 流域治水の広報

- OHP等で防災ガイドブックを掲載し、ハザードマップや災害時行動、防災メール配信等周知

### リスク情報等の提供

- R4年度作成のマイ・タイムラインを防災講話等で再周知
- 地域の自主防災組織へ出向き、防災ガイドブック掲載のハザードマップや水害等災害時の避難等について、防災講話を実施(5地区)

### 訓練活動

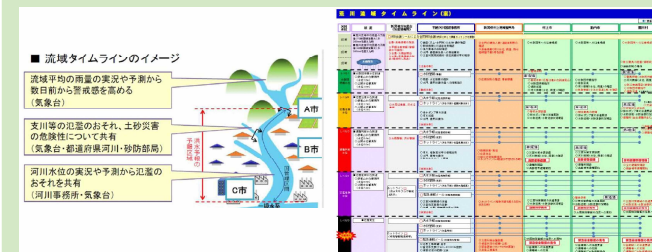
- 自主防災組織の訓練に常時参加(10回、750人)
- 洪水対応演習を実施(1回、6人)
- 荒川水防訓練に参加(1回、68人)

### 水防活動の支援

- 荒川合同巡視に参加し、危険箇所、水防倉庫の備蓄材など確認(1回、2人)
- 市報、HP、消防団通信等で消防団員を募集
- 大雨による浸水を事前に防ぐため、土のうを作成し該当地区へ配備した。

### 計画策定

- 自治会・集落、自主防災組織へ避難行動要支援者の個別避難計画作成に向けたセミナー(3回目)を実施(7月)
- 国、県、自治体が災害発生前に取るべき防災行動を共有し、災害対応の向上を図るために、流域タイムラインをR5年度より運用開始



### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

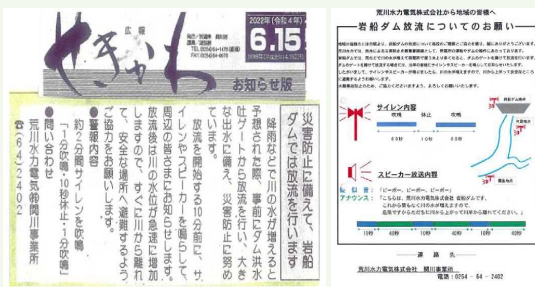
## R5取組状況 (荒川水力電気)

- 10 -

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 流域治水の広報

- ダム放流における危害防止を図るため、関川村広報誌への掲載(1回)
- 水難防止のチラシ配布(2地区、1回)



### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### リスク情報等の提供

- ダム放流にサイレン・スピーカー等による周知を実施
- 岩船ダムデータの情報提供

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### 訓練活動

- 洪水対応演習を実施(1回、7人)
- 荒川水防訓練へ参加(1回、1人)



土のう作り (村上市消防団)

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

### R5取組状況 (赤芝水力発電)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

#### 流域治水の広報

- ダム放流における水難防止に向け 関川村広報誌への掲載 (1回)



#### 訓練活動

- 洪水対応演習を実施(1回、6人)
- 荒川水防訓練を実施(1回、1人)



#### リスク情報等の提供

- ダム放流にサイレン・スピーカー等による周知を実施

#### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

#### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

#### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

## R5取組状況 (東北電力)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### 流域治水の広報

- ダム放流における危害防止を図るため、関川村広報誌への掲載(1回)
- 水難防止のチラシおよびポスター配布(20箇所、1回)



### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

### リスク情報等の提供

- ダム放流にサイレン・スピーカー等による周知を実施
- 鷹の巣ダムデータの情報提供

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

### 訓練活動

- 洪水対応演習を実施(1回、3人)
- 荒川水防訓練へ参加(1回、1人)



### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

●:情報の受け手

河川水位	状況	新潟地方气象台 (気象情報等)	羽越河川国道事務所	新潟県村上地域振興局	村上市	胎内市	関川村	
3日前	■荒川流域平均雨量の予測値(72時間積算最大)が200mmを越えた時	<input type="checkbox"/> WEB会議ツールによる合同WEB会議(状況に応じて開催タイミングを調整)  <b>台風・気象情報の発表</b> <input type="checkbox"/> 早期注意情報(警報級の可能性) <input type="checkbox"/> 台風・大雨説明会 <input type="checkbox"/> 台風・気象情報の発表(継続的に発表)	<input type="checkbox"/> 施設(ダム・水門等)の点検・操作確認 <input type="checkbox"/> 関係機関との連絡体制確認 <input type="checkbox"/> 協力業者の体制確認 <input type="checkbox"/> 水門・樋管操作員への事前周知 <input type="checkbox"/> 災害対策用資機材・復旧資機材等の確保  <b>【注意体制】</b>	<input type="checkbox"/> 水門の操作人員・連絡体制等の確認 <input type="checkbox"/> 気象情報(河川水位、雨量、降水短時間予報)等を収集	<input type="checkbox"/> 水防団等への注意喚起	<input type="checkbox"/> 水防団等への注意喚起	<input type="checkbox"/> 水防団等への注意喚起	
2日前	■荒川流域平均雨量の予測値(48時間積算最大)が200mmを越えた時							
1日前	大雨発生							
レベル1 水防団待機水位	<input checked="" type="checkbox"/> 水防団待機水位到達 <input type="checkbox"/> 葛箆山水位観測所(水位3.0m) <input type="checkbox"/> 上関水位観測所(水位3.6m)	<input type="checkbox"/> 大雨注意報、洪水注意報	<input type="checkbox"/> 水防警報(準備)  <input type="checkbox"/> 雨量・水位情報の提供 <input type="checkbox"/> 水門、樋管の操作員への待機指示  <b>【警戒体制】</b>	<input type="checkbox"/> 応援体制の確認、事前準備	<input type="checkbox"/> 監視体制 <b>第1配備</b> <input type="checkbox"/> 警戒体制(氾濫注意水位到達見込) <input type="checkbox"/> 水防団待機指示 <input type="checkbox"/> 堤防巡視 <input type="checkbox"/> 河川情報(水位、雨量)の確認	<input type="checkbox"/> 水防団待機指示 <input type="checkbox"/> 堤防巡視 <input type="checkbox"/> 河川情報(水位、雨量)の確認 <input type="checkbox"/> 気象情報(今後の見通し等)の確認	<b>第1配備</b> <input type="checkbox"/> 防災職員の配置(情報収集) <input type="checkbox"/> 連絡体制の確保  <input type="checkbox"/> 職員待機(水防団待機指示準備) <input type="checkbox"/> 河川情報(水位、雨量)の確認 <input type="checkbox"/> 防災無線開設(移動系) <input type="checkbox"/> 水防団待機指示 <input type="checkbox"/> 堤防巡視 ※上関水位4.3m	
レベル2 氾濫注意水位	<input checked="" type="checkbox"/> 氾濫注意水位到達 <input type="checkbox"/> 葛箆山水位観測所(水位3.7m) <input type="checkbox"/> 上関水位観測所(水位4.3m)		<input type="checkbox"/> 洪水予報(氾濫注意情報)  <input type="checkbox"/> ホットライン(洪水予測>避難判断水位)	<input type="checkbox"/> 排水ポンプ車の派遣 <input type="checkbox"/> 河川巡視 <input type="checkbox"/> 水門、樋管の操作  <b>【非常体制】</b>	<input type="checkbox"/> 情報収集・発信 <input type="checkbox"/> 応急対応 <input type="checkbox"/> 被災状況情報提供 <input type="checkbox"/> ホットライン(L4超過が予想される時)	<b>第2配備</b> <input type="checkbox"/> 警戒本部設置 <input type="checkbox"/> 排水ポンプ車の派遣要請 <input type="checkbox"/> 水防巡視・水防活動状況報告	<b>第1配備</b> <input type="checkbox"/> 関係職員の配備 <input type="checkbox"/> 排水ポンプ車の派遣要請 <input type="checkbox"/> 水防巡視・水防活動状況報告	<b>第2配備</b> <input type="checkbox"/> 災害警戒本部設置 <input type="checkbox"/> 排水ポンプ車の派遣要請・連絡員配置 <input type="checkbox"/> 水防巡視・水防活動状況報告 <input type="checkbox"/> 避難所(自主避難所含む。)開設  ※上関水位4.7m <input type="checkbox"/> 交通規制等
レベル3 避難判断水位	<input checked="" type="checkbox"/> 避難判断水位到達 <input type="checkbox"/> 葛箆山水位観測所(水位6.4m) <input type="checkbox"/> 上関水位観測所(水位6.6m)	<input type="checkbox"/> 大雨警報、洪水警報	<input type="checkbox"/> 洪水予報(氾濫警戒情報)  <input type="checkbox"/> 水防警報(状況) <input type="checkbox"/> ホットライン(洪水予測>氾濫危険水位)	<input type="checkbox"/> 河川、堤防変状等の情報共有 <input type="checkbox"/> 水門、樋管の操作 <input type="checkbox"/> 防災エキスパート要請  <b>【非常体制】</b>	<input type="checkbox"/> 災害対策本部設置 <input type="checkbox"/> 河川情報(水位、雨量)の確認  <b>高齢者等避難</b> <input type="checkbox"/> 避難所開設 <input type="checkbox"/> 高齢者等避難開始	<input type="checkbox"/> 災害対策本部設置 <input type="checkbox"/> 河川情報(水位、雨量)の確認  <b>高齢者等避難</b> <input type="checkbox"/> 避難所開設 <input type="checkbox"/> 高齢者等避難開始	<b>第3配備</b> <input type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 災害対策本部設置 <input type="checkbox"/> 避難指示  <b>全村避難準備情報</b> <input type="checkbox"/> 全村避難所開設 <input type="checkbox"/> 高齢者等避難開始	
レベル4 氾濫危険水位	<input checked="" type="checkbox"/> 氾濫危険水位到達 <input type="checkbox"/> 葛箆山水位観測所(水位6.9m) <input type="checkbox"/> 上関水位観測所(水位7.4m)	<input type="checkbox"/> ホットライン(洪水キキクルで警戒L4表示)	<input type="checkbox"/> 洪水予報(氾濫危険情報)  <input type="checkbox"/> 水防警報(状況) <input type="checkbox"/> ホットライン(洪水予測>堤防天端超過)	<input type="checkbox"/> 緊急速報メール(氾濫危険情報)  <input type="checkbox"/> 災害対策機械の派遣 <input type="checkbox"/> 災害協定業者の出動 <input type="checkbox"/> 流観、水門、樋管操作員の退避  <b>【非常体制】</b>	<input type="checkbox"/> ホットライン(堤防天端を越える恐れがある時)	<input type="checkbox"/> 災害対策機械の派遣要請 <input type="checkbox"/> 水防巡視・水防活動状況報告  <b>避難指示発令</b>	<input type="checkbox"/> 職員参集 <input type="checkbox"/> 災害対策機械の派遣要請 <input type="checkbox"/> 水防巡視・水防活動状況報告  <b>避難指示発令</b> <input type="checkbox"/> 大雨特別警報の住民への周知	<input type="checkbox"/> 災害対策機械の派遣要請 <input type="checkbox"/> 水防巡視・水防活動状況報告  <b>全村避難指示発令</b> <input type="checkbox"/> 大雨特別警報の住民への周知
レベル5 氾濫発生	<input checked="" type="checkbox"/> 氾濫発生	<input type="checkbox"/> ホットライン(特別警報発表時等)	<input type="checkbox"/> 洪水予報(氾濫発生情報)  <input type="checkbox"/> 水防警報(状況) <input type="checkbox"/> ホットライン(氾濫発生)	<input type="checkbox"/> 緊急速報メール(氾濫発生情報)  <input type="checkbox"/> 応急工事準備・着手 <input type="checkbox"/> 自治体支援(TEC-FORCE活動) <input type="checkbox"/> 被害状況の把握・公表	<input type="checkbox"/> 災害対策会議設置 <input type="checkbox"/> 被害状況の把握・公表 <input type="checkbox"/> 緊急調査(TEC-FORCE要請) <input type="checkbox"/> 応急工事着手	<input type="checkbox"/> 大雨特別警報の住民への周知  <b>緊急安全確保の発令</b> <input type="checkbox"/> 自衛隊への派遣要請 <input type="checkbox"/> 避難者への支援 <input type="checkbox"/> 避難所に水防情報提供	<input type="checkbox"/> 緊急安全確保の発令 <input type="checkbox"/> 自衛隊への派遣要請 <input type="checkbox"/> 避難者への支援 <input type="checkbox"/> 避難所に水防情報提供	

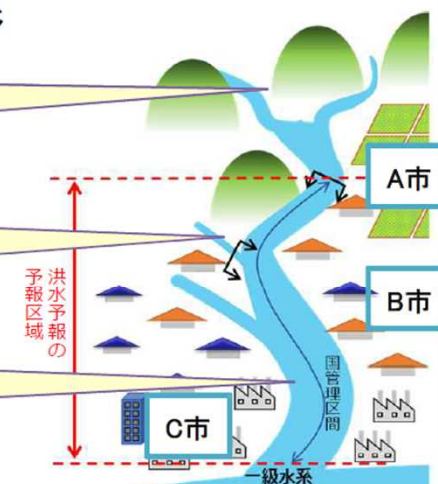
- 河川・気象の行動のきっかけとなる情報をまとめた流域タイムラインを作成
  - ※ 河川・気象情報の提供やこれを受けた市区町村による避難情報の発令など**基本的な行動を時系列で整理するタイムラインを流域などの単位で作成**
  - ※ 時系列に沿った国交省・気象台・県・市村の防災行動を横並びに、かつ簡潔にまとめ、他機関と連携する項目のつながりや、同時期に他機関が**どのような動きをしているのかを把握することが可能**
- 台風・前線接近時等のWEB会議ツールによる危機感の共有を実施
  - ※ 市区町村による避難情報発令などの防災対応を支援するため、河川事務所、気象台、県とも連携し、**WEB会議ツールを活用**することで防災情報や危機感の共有、流域自治体の対応状況等を**関係者で一斉に共有**

## 流域タイムラインのイメージ

流域平均の雨量の実況や予測から数日前から警戒感を高める  
(気象台)

支川等の氾濫のおそれ、土砂災害の危険性について共有  
(気象台・都道府県河川・砂防部局)

河川水位の実況や予測から氾濫のおそれを共有  
(河川事務所・気象台)



## 荒川流域タイムラインの流れ

- ①発動
  - ・降雨予測が荒川の流域平均雨量が200mm/48hを超える時
- ②合同WEB会議の開催(2~3日前)
  - ・防災情報等を共有
- ③出水対応
  - ・各機関の対応行動を実施

荒川流域タイムライン(案)							
河川水位	状況	新潟地方気象台 (気象情報等)	羽越河川国道事務所	新潟県村上地域振興局	村上市	胎内市	関川村
3日前	■荒川流域平均雨量の予測値(72時間観測最大)が200mmを超える時 ■荒川流域平均雨量の予測値(48時間観測最大)が200mmを超える時	○WEB会議ツールによる合同WEB会議(役割に応じて開催タイミングを調整) ■台風・気象情報の発表	○河川(ダム・水門等)の点検・操作確認 ○関係機関との連携体制確認 ○協力業者の体制確認 ○水門・観測操作員への事後周知 ○災害対策用資機材・資材運搬機材等の確保		○水防隊等への注意喚起	○水防隊等への注意喚起	○連絡体制の確保
2日前	■大雨発生		【注意体制】 ○水防警報(注意)				
1日前	■水防隊待機水位到達 ○荒電山水位観測所(水位3.0m) ○上郷水位観測所(水位3.6m)		○西壁・水位情報の提供 ○水門・観測の操作員への待機指示		○水防隊待機指示 ○堤防点検 ○河川情報(水位、雨量)の確認	○水防隊待機指示 ○堤防点検 ○河川情報(水位、雨量)の確認	○水防隊待機指示 ○河川情報(水位、雨量)の確認
レベル1 水防隊待機水位			【警戒体制】 ○洪水予報(注意注意情報) ○ホットライン(洪水予測>避難判断水位)				
レベル2 氾濫注意水位	■氾濫注意水位到達 ○荒電山水位観測所(水位3.7m) ○上郷水位観測所(水位4.3m)		○排水ポンプ車の派遣 ○河川点検 ○水門・観測の操作		○排水ポンプ車の派遣要請 ○水防設備・水防活動状況報告	○排水ポンプ車の派遣要請 ○水防設備・水防活動状況報告	○堤防点検 ○排水ポンプ車の派遣要請 ○水防設備・水防活動状況報告 ○避難所開設の準備
レベル3 避難判断水位	■避難判断水位到達 ○荒電山水位観測所(水位4.4m) ○上郷水位観測所(水位4.8m)		○河川・堤防状況等の情報共有 ○水門・観測の操作 ○防災メール(ハード)要請		○避難所開設 ○避難所等避難開始	○避難所開設 ○避難所等避難開始	○避難所開設の準備
レベル4 避難危険水位	■避難危険水位到達 ○荒電山水位観測所(水位4.9m) ○上郷水位観測所(水位7.4m)		【非常体制】 ○洪水予報(注意注意情報) ○水防警報(注意) ○ホットライン(注意) ○緊急連絡メール(注意) ○災害対策用資機材の派遣 ○災害指定業者の出動		○避難所開設 ○避難所等避難開始 ○大雨特別警報の住民への周知	○避難所開設 ○避難所等避難開始 ○大雨特別警報の住民への周知	○避難所開設の準備
レベル5 氾濫発生			○緊急工事業態・着手 ○自衛隊支援(TED-CO-FORCE)要請 ○機警状況の把握・公表		○避難所開設 ○避難所への派遣要請 ○避難者への支援 ○避難所に水防情報提供	○避難所開設 ○避難所への派遣要請 ○避難者への支援 ○避難所に水防情報提供	○避難所開設の準備

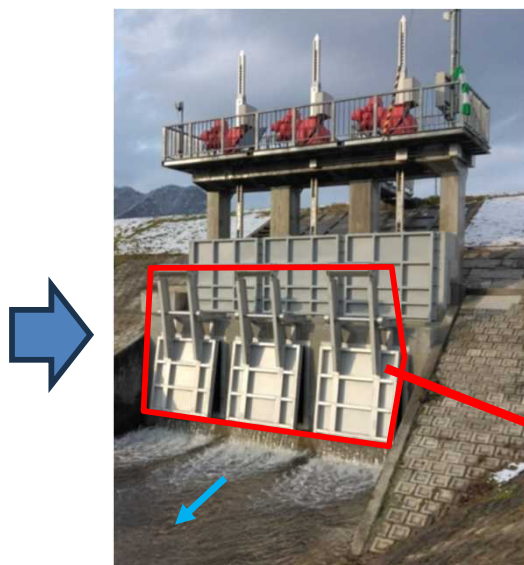
## 概要

集中豪雨等による急激な水位上昇に対応するため、操作員が操作に到着する前の増水で堤内地へ河川水が逆流するのを防止するため、既設扉体の全面にフラップゲートを増設し、ゲートの二重化を実施しました。

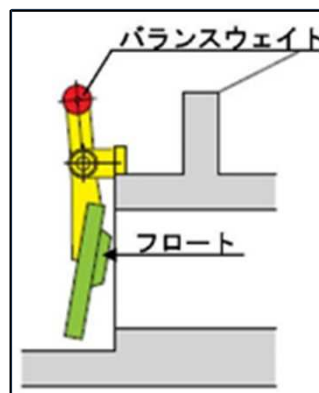
### 設置前



### 設置後



### 構造



河川水位の上昇に伴い水圧によりゲートが閉じ堤内地への逆流を防止

フラップゲート

(参考)フラップゲート全開時  
※ゲートは常時、下げた状態になります



工事名 R4大沢川排水樋管外1箇所改良工事

水門扉付工  
オートゲート据付  
全開確認  
No.2  
高田排水樋管

(株)越後交通院工所

## 運用開始時期

令和6年3月1日 完成  
令和6年4月から運用開始 (融雪出水)